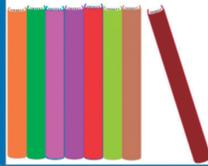




大人が絵本を 第47回 方言は



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

方言って消滅するの？

「消滅の危機にある方言」について、マスメディアで報道されていますので、ご存知の方も多いでしょう。

遡ること約10年前の2009年2月20日付朝日新聞夕刊に「八丈語？ 2500言語、消滅危機 日本は8語対象、方言も独立言語 ユネスコ」という見出し記事が掲載されました¹⁰⁾。国連教育科学文化機関(ユネスコ)が、今世界に存在するおよそ6000言語のうち、2500の言語が消滅の危機にさらされているとの調査結果を発表したのです。日本国内の言語が8つも挙げられていたことには衝撃を受けました。なかでも、方言とは別の「言語」となる北海道のアイヌ語は、消滅の危ぶまれる4段階評価のうち、最も危険な「極めて深刻」と評価されました。それに次ぐ「重大な危険」とされたのは、沖縄県の八重山語と与那国語、「危険」が沖縄語、国頭語、宮古語、さらに鹿児島県奄美諸島の奄美語、東京都八丈島の八丈語でした¹⁰⁾。

各地の方言を特色としたドラマ制作に力を入れているNHKが、2001年の連続テレビ小説「ちゅらさん」の舞台を沖縄の小浜島としたことで、なんとも独特なアクセントをもつ琉球ことばは全国の注目を浴びました。「○○さあ〜」という、のんびりとした語尾は国民にコスプレされ、方言とともに、衣食住など沖縄独自の文化も愛着をもたれることとなりました。ドラマではヴァーチャル方言としか受け止められない本土出身俳優陣がいれば、沖縄出身のリアル方言を使う女優を起用していて、琉球諸島の方言文化が受け継がれていると感じ取ったのですが、現実には消滅の危機にある方言と発表されたことに驚き、見えていることは裏腹な実態を目の当たりにしたのです。小浜島は八重山列島のひとつで、消滅の「重大な危機」と指

摘された八重山語を方言に持つ島です。やはり、方言話者の高齢化が問題にあるのでしょうか。

探りたくなるその謎。方言は文化だ!!

日本の文化遺産のひとつである方言を用いた絵本は、大阪弁絵本の作品数とは比べものにはなりません、各地方に存在しています。消滅の危機にあると指摘されている八重山語の絵本『あんぱるぬゆんた』は、石垣島に古くから伝わる「あんぱるぬみだが一ま」という八重山古謡を題材にした文化財です。「あんぱる」とは石垣島の名蔵川河口の干潟で、その干潟に住むカニたちが登場します。漢字で「網張ぬ目高蟹ゆんた」と書き、「あんぱるぬ=あんぱるの」「みだが一ま=目高蟹(めだかがに)」「ゆんた=労働の苦しさには負けずに口ずさまれていた唄」との意味をもつようです¹¹⁾。



『あんぱるぬゆんた 沖縄・八重山古謡』
代田 昇文 宮良貴子 絵
(銀河社)



「はーはいへー さあさ どんどん ちからをつけて
まれどしびとを いわいたばーれ」¹¹⁾ (下線は筆者)

アクセントはわかりませんが、下線を引いた意味のわかりにくい方言には、共通語訳が示されているので、お話は十分わかりますし、「びゅーひゃら びゅーひゃら はーはいへー」「どんどか どん どんどか どん はーはいへー」¹¹⁾ など、古謡のリズムとカニの絵が楽しいので、小さな子どもから楽しめます。

しかし、絵本のメッセージは深く、その昔「重い年貢を課せられた農民たちが、互いに農作業を助け合う

手にするときは！

文化だ!! 弐の巻

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ***

*** 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

『結い』の精神や、祝辞のようをカニに擬人化して歌いあげたゆんだで、八重山への重税に逃亡する農民を官吏たちが待ち受け捕らえた土地であったことから名付けられた」のが「^{あんぼる}網張」の由来なのだそうです¹¹⁾。

八重山の方言を楽しく語りながらも、重い歴史の上にある人々の生き様を真っ直ぐに問いかけてくる、小さな子どもから大人に向けた一冊です。八重山で暮らす子どもたちへ、島の歴史と、歴史あることばの文化を伝え、継承していくツールとして絵本は大きな役割をもつでしょう。また、生育地でない日本人にとっては、あまり知られていない日本の歴史を知り、日本という国を見つめなおすきっかけとなってくれます。



時代に翻ろうされたしまくとぅば(島言葉)

沖縄県は、2006年に琉球語の再活性化を目指して「しまくとぅばの日」を設定しました¹²⁾。沖縄戦絵本『おきなわ 島のこえ』では、このような唄が流れます。

イクサユン シマチ、ミルクユン ヤガティ
(せんそうは もうじき おわる。へいわな ゆたかな ときがくる)

ナギクナヨ シンカ、ヌチドウ タカラ¹³⁾
(なくなよ みんな、いのちこそ たから) (括弧書きは本文のまま)

琉球諸方言の音声全てを正確に表記することは至難の業といわれているとおり、音声上も文法上も独自性の強い文化であることは、日本人の誰もが知っていることです。だからこそ、先祖代々伝えられてきた島人の結束力の強い、奥深い文化がみえてくるのです。琉球列島で伝統的に話されてきた「しまくとぅば」は、沖縄戦(1945年)で矯正されるだけでなく、遡ること琉球処分(1879年)や、日本語教育の導入、方言撲滅運動に、戦後は日本語メディアの普及と「復帰」運動に伴う標準語励行など、常に時代の荒波に飲まれ継承を阻まれてきた辛い歴史がありま

す。その結果として、消滅危機言語として認定されてしまう状態に陥ったのですが、今になって「しまくとぅば」が継承すべき価値のある言語だと再認識されたのです¹²⁾。

沖縄が舞台の絵本と聞かれたら、『おきなわ 島のこえ』(小蜂書店)や『りゅう子の白い旗』(築地書館)にみられるような、沖縄戦を取り扱ったものがいち早く思い起こされていました。沖縄は戦争の苦しい歴史をもつばかりでなく、今なお苦しめられています。戦争絵本は日本人が沖縄の苦しみを共有する媒体で、これからも忘れてはならない史実となりますから、しまくとぅばと同じく消滅の危機に追いやってはならないのです。歴史的背景による独自の文化をもつ沖縄絵本を継承した上で、いま新しい絵本が生まれています。



「沖縄」の歴史・文化をもっと知りたい!

『いのちのまつり ヌチヌグスージ』は、「いのちは目に見えないけれど、ずっずっと、つなかって行くのさあ〜」と、いのちのつながりを佐賀市出身の陶彩画家・草場一壽氏と、那覇市出身のイラストレーター平安座資尚氏のコンビが、沖縄のことばで紡いでいます¹⁴⁾。

『いのちのまつり
ヌチヌグスージ』
草場一壽 文 平安座資尚 絵
(サンマーク出版)



「命の(ヌチヌ)御祝事(グスージ)」という意味をもち、「命のお祝いをしましょう」とのお話です。『島のこえ』のようなストレートな戦争のお話ではありませんが、どんな時代でも、どの地域でも「いのちは宝」



で、いのちを繋いでくれた先祖がいるからこそ、今自分はここにいるし、生きたくても生きられなかった時代の先祖もいることを温かく語りかけてきます。

沖縄で年に一度行われる海神祭（ウンガミ）ハーリー船を主人公に、伝統的な祭りと文化を描いた『沖縄の祭りエイサー！ハーリー』（フレーベル館）は、九州国立博物館が編纂している文化財をテーマとした「きゅうーはくのえほん」シリーズです。

地方の文化であり、文化財である昔話は沖縄にもたくさん伝わります。なかでも、沖縄ことば一色の絵本は『ふなひき太良（たらあ）』（岩崎書店）でしょう。通常、方言を使用する絵本は、その地方以外の人にも理解しやすいように会話だけ方言を用いて、文章は共通語を使うパターンが多く見られます。しかしながら「太良」は、徹底して沖縄ことばで描かれています。そして、それが沖縄の文化と島国の自然、災害による苦しみから生まれた生きる知恵と島人の人柄を、読む者のイメージへとつなげてくれるのです。



島唄から生まれる絵本。絵本が奏でる島唄

日本人は、観光地としての沖縄や南国の離島が大好きです。そんな島国へ観光に行くと、宿泊施設や飲食店など島の各所で島唄が流れています。琉球民謡をアレンジしてウチナー・ポップを確立した喜納昌吉氏に続き、奄美では元ちとせ氏に中孝介氏らが唄者からポップス界へ轉身し、琉球方言や奄美方言の全国流布に大きく貢献しています。先に紹介しました『あんばるぬゆんた』も八重山地方に継承される古謡です。島唄に出てくることばは当然、方言が使われています。

奄美に伝わる島唄「くろうさぎはねた」もまた、絵本となっています。奄美出身者以外にも理解しやすいように共通語が多く使われていますが、島の生きものの、伝承、信仰、建築物といった島独自の自然や文化的要素は、奄美のことばで表現され、子ども向けにやさしく唄います。

この島唄絵本で、奄美の文化をイラストに表現し

たのは福岡出身の絵本作家・石川えりこ氏です。石川氏は、自らが育った土地の、生活の基盤であった炭鉱の暮らしを絵本で表現し、地方文化の継承を大切にしている作家です。奄美は石川氏の生育地ではありませんが、奄美大島出身のこうだてつひろ氏のことば（詩文）を、島で暮らしてきた人々と、今暮らしている島人の心や文化と重ね合わせて生き生きと表現しています。



言語消滅の危機まで波及する自然災害

ユネスコの調査報告を受けて、日本では文化庁が消滅の危機にある「方言」の調査研究に着手しました。その調査において、ユネスコの報告には含まれていなかったデータを解析したのです。すなわち、東日本大震災の被災地である岩手県の三陸地方の方言も、危機の状況にあるという問題です¹⁵⁾。「じえじえじえ」を方言にもつ小袖地区を含む地域に当たります。震災で高齢の方が亡くなられ、話者が減少したことに加えて、震災直後に土地を離れた方々のうち、年配者は元の土地に戻っているけれど、若い世代がそのまま離れていく傾向にあると言います。つまり、「担い手」「受け手」が減っていく環境が生まれているというのです。

もうひとつ指摘されている地方は、原発の大きな影響を受けた福島県です。楢葉町などの辺りは徐々に帰還されているようですが、その多くは年配者と報告されています。また、福島復興局が報告した「帰還に関する意向」調査によると、双葉町と大熊町では住民の半数以上が「戻らない」（双葉61.1%、大熊59.3%）、浪江町、富岡町でも半数に近い世帯が「戻らない」と回答しており、福島の方言が消滅の危機に追い込まれている状況を伺い知ることができます¹⁶⁾。このままで良いわけがありません。

前回の「壺の巻」でお話しましたが、昔話は方言の宝庫でして、なかでも誰しもが知っている昔話こそ、東北弁が圧倒的に多いのです。東北弁が昔話の中だけのことばと化すことがないように、大事に守り語り継

ぐ環境を作らないとなりません。

「やってやっぺし」方言の魅力を再確認

「東北弁絵本は現代版も元気です。きっと手に取りたくなるそのタイトルは、『東北んめえものうた』です。「壺の巻」で紹介しました『大阪うまいものうた』に続く、長谷川義史氏の「うまいもん」シリーズ東北バージョンで、岩手、宮城、福島3県の「んめえもん」が、アメリカ民謡「ゆかいな牧場」のメロディーに乗って登場します。

『東北んめえものうた』
長谷川義史 作
(佼成出版社)



東日本大震災の後、版元である佼成出版社の編集者より、東北を元気にしてくれるような絵本の執筆依頼を受けた長谷川氏が、その願いを正面から受け止め、引き受けて完成した一冊です¹⁷⁾。長谷川氏の愛がこめられた絵本の最後のページは、「んだば、みなさん、おでっくなんせ！」¹⁸⁾で締められています。東北の美味しい食べものと、かわいい方言が満載です。

「方言は文化だ!! 壺の巻」の原稿を東京臨床出版に入稿した3日後、大阪北部地震が発生し、日本中が大阪在住者の安否と被害状況を確認し合いました。それから1か月もしないうちに西日本を襲った豪雨は、瞬く間に大災害となり、自然の脅威にただただ絶句するばかりでした。被害にあわれた読者ならびに編集者の皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。子どもと大人、それぞれの力となってくれるもの、それが絵本であり言葉、方言です。日本中が一丸となって被災地を支え、元気な日本であってほしいと願います。

全国の小児歯科医院の皆さまには、『名古屋うみやあものうた』と合わせた「うまいもん」シリーズ3冊セットの設置をおすすめします。歯科衛生士や受

付スタッフが、歌と踊りをマスターして、診療の合間に大合唱すると、ますます楽しい歯科医院になるでしょう。子どもたちのお口と心身の健康を支援し、未来へと導く使命にある医療スタッフが方言文化の魅力を発信してしかりではないでしょうか。

小児歯科医療が担う文化的役割として、方言の魅力を再確認しながら各地の歯科医院からご当地の方言を発信し、日本の文化を継承していく活動につなげて、日本を元気にしましょう。



文献

- 1) 田中ゆかり：方言コスプレの時代－ニセ関西弁から龍馬語まで、岩波書店、東京、2011、pp.68-114.
- 2) 田中ゆかり：同上、pp.2-12.
- 3) 水沢謙一 再話、梶山俊夫 絵：さんまのおふだ、福音館書店、東京、1985.
- 4) 今江祥智 文、田島征三 絵：ちからたろう、ポプラ社、東京、1967.
- 5) 松居 直：絵本のよろこび、NHK出版、東京、2003、pp.206-227.
- 6) 松谷みよ子 文、瀬川康男 絵：やまんばのにしき、ポプラ社、東京、1967.
- 7) 小澤俊夫：改訂 昔話とは何か、小澤昔ばなし研究所、神奈川、2009、pp.242-259.
- 8) よしながこうたく：給食番長、好学社、東京、2014.
- 9) 小学館：女子のかわいい方言ランキング 1位の都道府県は2位の京都に4倍差…どこ？、Can Cam.jp、2018/1/23 HP <https://cancam.jp>
- 10) 朝日新聞社：八丈語？ 世界2500言語、消滅危機 日本は8言語対象、方言も独立言語、朝日新聞夕刊、2009/2/20、p.1.
- 11) 代田 昇 文、宮良貴子 絵：あんばるぬゆんたー沖繩・八重山古謡、銀河社、東京、1976.
- 12) 呉人 恵：日本の危機言語－言語・方言の多様性と独自性、北海道大学出版会、北海道、2011、pp.203-229.
- 13) 丸木 俊、丸木位里：おきなわ島のこえ ヌチドウタカラ、小峰書店、東京、1984.
- 14) 草場一壽 作、平安座資尚 絵：いのちのまつり 「ヌチヌグスージ」、サンマーク出版、東京、2004.
- 15) 文化庁：東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究、文化庁ホームページ <http://kodomo.bunka.go.jp>.
- 16) 復興庁：福島復興加速への取組、福島復興局、2018.5 復興庁ホームページ <http://reconstruction.go.jp>
- 17) 佼成出版社：『東北んめえものうた』、佼成出版社 HP <https://www.kosei-shuppan.co.jp>
- 18) 長谷川義史：東北んめえものうた、佼成出版社、東京、2012.